

1-2-13-2 県指定・荏野文庫 1516 冊

〈県指定〉昭和 57 年 5 月 14 日

〈所有者〉高山市

〈所在地〉上一之町 75 番地 飛騨高山まちの博物館

〈時代〉江戸時代（18～19 世紀）

〈員数〉519 部、1,516 冊、7 函

文庫（1,516 冊）著述本、手摺本および古今珍籍名著 A 稿本類 84 部 144 冊、B 書入本 132 部 685 冊、C 筆写本 20 部 21 冊、D 所蔵本 199 部 538 冊、E 附り 84 巻 128 冊

書函（7 函）第 1 函より第 6 函横長・横幅 44～43.4 cm、高さ 41～41.5 cm、奥行 30.5～31.7 cm、第 7 函縦長・横幅 22.4 cm、高さ 41.7 cm、奥行 30.7 cm

高山で生まれた国学者歌人田中大秀（1777～1847）の著述本並びに手摺本で、もとは江名子町の荏名神社境内の荏野文庫土蔵内にあった。大秀の没後荏野文庫の蔵書は、文台継承者山崎弘泰の花里文庫に移されたが、弘泰の息子弓雄、弓束が没して後は文庫の維持管理ができなくなり、ついに上木氏の所蔵になった。

二木豊子氏から寄贈された「書籍改記録」により大秀晩年の蔵書内容の大概を知ることができる。これは嘉永 2 年（1849）荏野文庫を花里文庫に移すについての改めで、これをもとに草稿類を加えると 555 部 1,828 冊になる。これは、大秀晩年の荏野文庫の実態にかなり近い数と考えられるが、改め以後散逸したものがある。

大正元年（1912）、吉島休兵衛、日下部九兵衛、土川宗兵衛、平瀬市兵衛諸氏の援助により、当時の高山町教育会が上木捨三から文庫を一括購入した。この購入分と先に明治 43 年（1910）山崎弓束から高山町図書館へ寄贈されていた遺著、その後の増加分を合わせて総計 519 部 1,516 冊を数える。

この中には、大秀の名声を高めた名著『竹取翁物語解』、『落凹（窪）物語続解』、『荏野冊子』、『養老美泉辯註』などがある。

参考文献

『高山の文化財』104～105 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年 3 月 31 日